

## 平成 19 年度 日本内分泌外科学会賞を受賞して

公立大学法人福島県立医科大学 乳腺内分泌甲状腺外科  
鈴木眞一

この度は、平成 19 年度日本内分泌外科学会賞をいただきありがとうございました。私どもが行ってまいりました甲状腺・副甲状腺疾患に対する一連の診療、研究に対しご評価をいただいたことに感謝しております。私は昭和 58 年に福島県立医科大学第二外科に入局し、25 年になりますが、故遠藤辰一郎名誉教授、阿部力哉名誉教授、そして竹之下誠一 現附属病院長の 3 人の教授に師事し、甲状腺、副甲状腺、副腎を中心とした内分泌外科学に診療、研究、教育に携わって参りました。当然のことではありますが、このような栄誉をいただけたことに対し 3 教授にあらためて感謝申しあげる次第であります。また、入局から現在に至るまでお世話になった医局、同門の諸先輩、同僚、後輩そして医局のすべてのスタッフの皆様にも感謝申し上げます。

今回はとくに私どもがいままで行ってきた甲状腺、副甲状腺さらに多発性内分泌腺腫症（以下 MEN）の診療、研究について述べさせて頂きました。

頸部内視鏡手術としては、1996 年 Gagner らの報告に触発され、1997 年に動物実験結果からまず頸部小切開を用いた内視鏡下副甲状腺腫瘍切除術を施行し、その後局在診断をより確実にし剥離面積をより少なくする目的で、Tc-MIBI を用いたラジオガイド下内視鏡（補助）下副甲状腺切除（RGVAP）を行い、頸部に 1.5cm の切開で短時間に切除可能となりました。その後、甲状腺切除に関しては、腋窩乳輪アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術（AAA-ETS）を行い、甲状腺良性腫瘍およびバセドウ病にたいし施行し、RGVAP は低侵襲性を AAA-ETS では整容性を重視した術式となっております。

甲状腺乳頭癌において BRAF 遺伝子の変異が、濾胞癌では NRAS の変異が発癌に関与しているという結果を報告致しました。さらに甲状腺癌の診断においてテロメララーゼ活性、h TERT mRNA が有用であり、とくに濾胞癌診断でも有用であることを示しました。hTERT とともに FB-21、Rasp21、PCNA、HBME1、Galectin-3 もすべて濾胞癌診断に有用ではありましたが、いずれも overlap する症例が存在しておりました。濾胞腺腫を大濾胞と小濾胞性腫瘍に大別すると、上記のマーカーの陽性率はいずれも濾胞癌、小濾胞腺腫、大濾胞腺腫の順であり、小濾胞性腫瘍は濾胞癌への前癌病変と思われました。

また、Elastography は甲状腺癌と良性腫瘍の鑑別に有用であり、とくに術前の濾胞癌診断には極めて有用であることがわかりました。

MEN 症例や極めて希な FIHP 家系にたいする、遺伝子診断やカウンセリングおよび下垂体以外の当科での幅広い治療経験につきご報告致しました。

以上のように、甲状腺副甲状腺疾患につき幅広く研究した成果をご報告させて頂きました。今後とも内分泌外科の診療、研究、教育に鋭意努力する所存です。どうかご指導のほどよろしくお願い致します。